

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (毎月一回二十五日發行)

阿武郡報

第六十一號

大正十一年二月廿四日印刷

大正十一年二月廿五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷

印刷所 萩 響 海 館

目 次

□ 苗代薄蒔の告諭	二
□ 庶 務	二
一 町村長集會	二
一 町村吏員の満期	五
一 高俣村に於ける振替貯金に依る納税	五
一 外國人に對する作法	八
□ 學 事	一〇
一 椿村一青年の篤志	一〇
□ 産 業	一一
一 阿武郡麥作保証栽培契約	一一
一 阿武郡東部七ヶ村聯合第一屆稻作多收共進會	一一
一 普通農事に關する協議會	一四
一 吾村の稻作實驗……地福村福江利久	一五
一 第二回阿武郡産牛共進會	一八



苗代薄蒔の告諭

阿武郡告諭第一號

苗代薄蒔の告諭

稻作を改良して産米の増加と品質の改善を圖るには稻の生育を充分にし以て不順の天候にも打ち勝ち結實を完全ならしむるといふことか最も大切であります。それには苗を最も丈夫に養成すること及び有効分蘗を多くし無効分蘗のなきやうにすること

これが第一であります。これは播種してから後稻苗を最も丈夫に養成すること!! とは播種してから後稻

の本性による發育を少しも妨げず本田植後速かに而かも充分に成長し結實を完ふするやうに立派な苗を育てることであります有効分蘗を多からしめ無効分蘗のなきやうにするに注意し、又は苗代時代になるべく澤山の分蘗を初めしめ本田移植後も七月中下旬迄に全部の分蘗を了り其の分蘗したるものは悉く完全に成育し穂揃見事に結實せしむることであります

この二つの大事なことを成し遂ぐるには
苗代を薄蒔とすること

これより外に途がないのであります即ち従来の厚蒔は苗が細長く繊弱になりやすから本田に移して後も發育が遅れ完全に育つことが出来ず莖や葉が細く弱くなり病水害に侵され易く従て穂は小さく結實が不十分なる許りでなく分蘗が遅れ土用を過ぎては尙ほ盛に分蘗しこの遅く分蘗したるものは一度不順の天候や初秋の冷氣に遭へば直ちに成長を中止し所謂遅れ穂と云ふて結實不十分のものや或は全く穂を出すことが出来なくなり爲めに毛上に不似合の不作の原因となるのであります故に苗代は薄蒔として日當りがよく充分發育することが出来るやうに間隔を置き以て健全なる良き苗を仕立てて思はぬ不作に悲むことの無いやうにしなければなりません

是れ即ち土地の利用を全ふし國民生活の安定を圖る基となるのであります

苗代の厚蒔は虫害や雑草の發生を少くし勞力を省かんとする従来の習慣でありますけれども之を改め薄蒔としなれば收穫を増加し又不順の天候に依る減收を防ぐことが出来ない理でありますから本年より

粗は浸し粗とし坪三合蒔を標準とすること

これを郡内一般に亘り實行事項として米作増收の目的を達せんことを期する次第であります當業者は宜しくこの趣旨を諒解して協力同心必ず之が實行に努めらるるの目的を達成するに至らんことを切望いたします

大正十一年一月四日

山口縣阿武郡長岡村勇二

庶務

町村長集會

一月十、十一日の兩日郡内町村長初集會を議事堂に開催し恒例に依り第一日午後二時より本部選出縣會議員の縣會開會中に於ける狀況報告ありたり當日郡長より指示及

注意したる事項左の如し

指示事項

- 一、苗代薄蒔告諭徹底に關する件
稲作を改良して産米の増加と品質の改善を期するには苗代の改良を施し薄蒔勵行をなすを以て第一義なりとす依て本月四日阿武郡告諭第一號を發し苗代薄蒔勵行に關し當業者の嚮ふべき途を示し其徹底方を訓諭する所ありたり各位克く此意を諒とし之か普及徹底に就き十分の力を加へ特に左記要項に則り之か督勵に盡力せられんことを望む
- 一、郡及郡農會の採るべき方法
- イ、苗代薄蒔告諭を一萬三千枚印刷し全農家に普く付すること
- ロ、苗代薄蒔の告諭の趣旨一部を印刷し町村、町村農會、學校篤農家等に配付すること
- ハ、各町村に所員を出張せしめ宣傳指導の任に膺らしむること
- ニ、町村若くは町村農會主催苗代品評會優等授賞を選奨すること
- ホ、町村若くは一部落舉て改良苗代を實行したるも

- のに對し表彰すること
- ヘ、縣技術員の應援を求むること
- ト、螟蛾發生の豫察燈を設置すること
- ニ、町村及町村農會の採るべき方法
- イ、苗代品評會を開催し全農家の苗代を出品せしむること
- ロ、薄蒔實行に關する趣旨を徹底せしむる爲實地指導講話印刷物配付等を行ふこと
- ハ、苗代播種時期に於ては役場員、區長、農會役員、地方委員、産業獎勵員等は相呼應し受持區域を定め之か獎勵の任に衝ること
- ニ、螟虫の徹底的驅除を行ふ爲め之か督勵をなし且つ相當獎勵方法を講じ螟虫驅除日を定め一齊に驅除を行はしむること
- ホ、成績優良なる者を選奨すること
- 三、當業者の採るべき方法
- イ、苗代は坪三合蒔を標準とし薄蒔を勵行すること
- ロ、段當播種量を三升乃至四升とし苗代面積を耕作段當十五歩に擴張すること
- ハ、苗代及本田に於ける螟虫驅除を徹底的に實行すること

キ、苗代田は必ず益虫保護器を設置すること
 ホ、苗代に耕作反別及氏名を記したる建札をなすこと
 参照

郡内苗代播種期調査

▲四月中旬

明木、佐々並、川上、生雲、地福、徳佐、嘉年
 高俣、福川、須佐

▲四月下旬

椿東、山田、三見、紫福、奈古、福賀、彌富

▲五月上旬

萩、椿、篠生、吉部、大井、宇田郷、田万崎、
 小川、大島、見島

二、滞納矯弊に關する件

滞納矯弊のことたる自治事務改善の第一歩にして不
 斷之が指導獎勵に力を致すところあるのみならず毎
 年々頭に當り特に各位と共に極力之が方策を考究す
 る所以なり郡内各町村を過去兩三年間特に相當成績
 を挙げ漸く面目一新の時機あるに到らんことを樂み
 つゝありしに昨年來の實情は却て其の成績逆轉のも
 若意のあるを加へ稍もすれば納稅事務に弛緩を來すか如

四、社會的事業施設に關する件

國民の思潮變化し生活亦安定を缺き之が解決は俱に
 民衆焦眉の要求にして近時社會問題の大に研究せら
 るゝ所なり今や國は各種社會事業を助成獎勵し富豪
 亦産を投して問題の解決に資せんとするものあるに
 至りたるは最も喜ぶべきことなりとす昨夏本郡主催
 に係る社會問題講演會講師なる山下信義氏の成案に
 依る別冊家産財團造成に關する要項の如き寔に機宜
 に適したるものと謂つべし思ふに今後社會の實情と
 民衆の要望とに鑑み施設すべき事項甚だ多きを覺ゆ

三、高等科入學者増加に關する件

各位の努力に依り漸次高等科入學者の増加を見つゝ、
 あるは教育普及上洵に喜ぶべき現象なりと雖之を時
 勢の進運と社會の實情とに鑑み今後更に之が増加に
 努むるの急要なるを認む明年度に於ては良好なる成
 果を收め以て時代の要求に副ふべく相當配慮せられ
 んことを望む

各位宜しく此等施設の普く實現すべく一層盡力せら
 れんことを望む

五、部落改善に關する件

部落改善に對しては相當留意せらるゝ所ならんも未
 だ事績の見るべきもの稀なるを遺憾とす事固より部
 落民の自奮自勵に俟つもの尠なからざるへしと雖と
 ども部落所在の町村にありても亦時に指導誘掖を必要
 とするもの多し幸にして本縣に於ては此等部落内の
 各種改善事業に對し補助獎勵せらるゝ所あるを以て
 各位に於ても常に周到なる調査を遂げ其の實情に應
 るし適當なる方策を樹て改善の實績を擧ぐる様努力せ
 られんことを望む

注意事項

- 一、自治事務講習生に關する件
- 二、民力涵養活動寫眞講演會開催に關する件
- 三、社會事業講習會旅費補給の件
- 四、山口縣銀行合同期成研究會に關する件
- 五、統計調査員手當支給に關する件
- 六、蠶箔製造講習會の件
- 七、農村振興基金募集に關する件

町村吏員の任期満了

大正十一年中に於て郡内町村長、助役、收入役に於て任
 期の満了する者左の如し

▲町 付入長

任期満了	町 村	氏 名
四月二十四日	高 俣	倉 増 美 資
九月六日	篠 生	口 羽 順 藏

▲助 役

任期満了	町 村	氏 名
五月十日	徳 佐	大 庭 平 次 郎
五月二十八日	福 賀	伊 藤 賢 治
六月三日	奈 古	小 野 甚 作

▲收 入 役

任期満了	町 村	氏 名
三月六日	明 木	中 谷 秀 作
六月十日	奈 古	小 田 藤 吉

高俣村に於ける振替貯金に依る納稅
 徴稅の事に就ては、何處の市町村でも尠からぬ、苦心

と手数を要して居る、就中他町村に住居するものの徴税には一層の苦心と手数を費して居る。而して他町村に住居する納税者に對しては、法は納税管理人を定めしむることになつて居るが、其實際に至つては、此等納税者の内には納税地の市町村に、何等の縁故を有せず爲に納税管理人を定めむとしても、其人を得る事が至難で、縁故のない人に頼むも其人が、管理人たる事を喜んで請合て呉れぬ所から、自然管理人の設置が等閑に附せられる、一面此等の人々に限つて、納税も延期勝ちになる傾向がある、これ等の人々は、決して貧困で納税を延滞するのではなく、多くは納税地迄行く努力と時間を惜むか若しく爲替に依る送金を面道が不心得から起るものである。故に此等の者に對していくら納税の觀念を鼓吹しても、比較的效果がないのである。此等の怠納者は納税てふ公の義務を、自己の利益により無視しつゝあるものであるから、此等の者の怠納を防止するには、此等の者の納税上の努力と時間を減少し、且送金上の手数を省く方法を講ずることが最必要なことである。此點に關し、本郡高俣村に於ては他市町村に在る納税者の爲に、郵便振替貯金に加入し、之を利用して納税し得る方法を講じて居る。本村は從來

他町村在住者持ちの、土地の多いことを以て知られて居る、現在其土地が畑のみで、本村畑總面積の五分の一以上あると云ふに至つては、驚かざるを得ない。故に當局者の納税取纏上の苦心の程も窺はれる。本村に於ては此等の者の怠納防止策として、大正八年五月より郵便振替貯金による納税の途を開いたのである。從來毎納期に多數の怠納者を出して居つたが、此の途を開いてからは此等の人々も、態々村役場まで持て行く努力と時間とが著しく減少され、爲替取組に依る手数が無い様になつたので、爾來怠納する者が殆んど無くなつて、村當局者は非常に喜んで居る、事は單純なれども納税奨励に關する施設の一として稱すべきものと思ふ。本縣下二百二十今町村に於ける振替貯金の方法に關し聞く處を二三掲記せば

(一) 令書に振替貯金用紙を添付し、納税者に配付す。而して其用紙には令書と同じ様に、番號、年度、税期、税種、納期、納人、税額等を記入し、尙送金及納税管理人設置に關する注意事項を記載して居る、故に各納税者は、此用紙に現金を添へて、最寄の郵便局に拂込れば、納税義務を免るゝのである。納税者は單に最寄

の郵便局に拂込む丈の手数と時間を要する譯で納税者にとりては、非常なる便利である。

(2) 振替貯金に加入して置けば、單に税金や其他村の收入に如此利便あるのみならず、他市町村に住居する者に對する支拂金の送金に多大の利便がある。

相手方が振替貯金加入の者なる時は、普通拂込用紙に金額振替拂込を受くべき加入者の口座番號及氏名を記載し、無料普通郵便に依り其所屬口座所管廳に送付せば同廳に於て夫夫、送金の手数を爲して呉れる。是については別に費用を要せず、手数も少く送金上安全である。仕拂證書の整理は同廳より送付し來る受拂通知票に依りてするから、別段支障も起らない。

相手方が振替貯金加入者ならざる時は、拂出用紙に拂渡を受くべき者の、住所、氏名、金額拂渡局名を明記し、現金拂の文字を附記して之を口座所管廳に送れば、前同様同廳に於て相手方に拂出の手續を了して證書として拂出通知票が來るから、整理上にも何等の支障がない。尤も此場合は料金を要するが、爲替料より廉く第一送金上安全である。

(3) 加入するには別に大した手数も入らぬ、左記事項を記載せる加入請求書を作製して、之を郵便局に差出し

- て指揮を待てばよいのである、官公署に於て加入請求の場合には別に基本預金の拂込も要せぬ。
- 一、加入者の住所氏名
 - 二、振替貯金の口座を開設すべき場所の指定
 - 三、加入の際振替貯金に關する用紙を買受けむとするものなるときは、其名稱及所要數量
- 其他の事項は郵便振替貯金規則第十四條に規定せり
- 關係法令の重なるもの
- 一、郵便振替貯金規則 (明治四十一年十一月) 遞信省令第四十七號
 - 二、同貯金小切手拂込規則 (明治四十三年七月) 省令第七十七號
 - 三、集金郵便振替貯金拂込規則 (明治四十四年九月) 省令第二十四號
 - 四、市公金受拂の爲にする郵便振替貯金特別取扱規則 (明治四十二年四月) 月省令第十五號
 - 五、府縣稅納入郵便振替貯金特別取扱規則 (明治四十二年四月) 月省令第四十九號
 - 六、郵便振替貯金に依る債券募集元利金支拂並貸付特別取扱規則 (明治四十五年五月) 省令第二十六號

□外國人に關する作法

外國人をして我邦に對し常に好感情を持たせることは、國交上極めて大切であります。故に國民は常に彼等に對する作法に特別の注意を拂はなければなりません。然るに我邦の人は從來此等國交上重大なことを甚しく閑却して居た感があります。左に外國人に對する作法の中で、一般國民が是非心得て置かなければならぬ條項を擧げます。

- 一、外國人は常に相當の敬意と同情を以て懇切丁寧に取り扱ひ、充分の好感を持つて歸國せしむる様努むること。
- 二、外國人に對しては常に外客として相當の敬意を拂ふことを忘れず、且彼等の多くは言語不通土地不案内でありますから、特別の同情を以て懇切丁寧に取り扱ひ、其の旅行滞在を出来るだけ安易愉快にし、充分の満足と好感とを持って歸國させるやうに努めねばなりません。
- 三、外國人に多人數附纏ふて輕侮の語を發したり批評したりせぬこと。
- 四、外國人が通行の際、物珍らしさうに多人數附纏うて輕侮の語(毛唐、チャンコロ等)の類を發したり、

又買物等の際多人數立ち塞がつて、種々批評をする等彼等が適意の行動を妨げ、不快の念を起させぬ様心掛けなければなりません。

- 三、汽車電車等では、外國人には特に席を譲り、容儀作法に注意すること。
- 四、汽車電車等では、外國人には特に席を譲り、容儀作法に注意すること。
- 五、外國人に對し特に不當の利益を貪らぬ様にすること。
- 六、外國人と見ると内地の事情に通じないのを幸に、往

- 四、外國人の前で肌を露はす等は、甚だしい不作法であるにも拘らず、近來我國では、ろれ程重く視て居らぬ様であります。之れが爲め外國人は屢々此の醜態を見せつけられて痛く不快の感を起し、我國民を以て直に劣等民族と斷定し、想はぬ誤解に陥らせる事が尠くない様であります。此の解決は一部服装の改善に俟たねばならぬ點もありますが、兎に角各人が斷然斯様な不作法をせぬ様にする平素の心掛けや躰が大切であります。
- 五、外國人に對し特に不當の利益を貪らぬ様にすること。
- 六、外國人と見ると内地の事情に通じないのを幸に、往

を不當の利益を貪らんとする不心得を敢てする者が尠くありません。斯様な事は文明國民の耻辱でありますから、外國人に對しても本國人同様、妄りに宿泊料や車馬賃等を貪つたり、又は品物を妄りに高く賣り附けたりする様なことがあつてはなりません。六、外國人には滞在中本邦知識階級の人の會合に列したるより、優良な家庭へ出入したりする機會を與へて本邦の真相を十分理解せしむる様努むること。

七、外國人には我が國語に通じない上に、其の國情が著しく異なつて居るので、我が邦に對して往々皮相の觀察を爲し、非常な誤解をして歸國するものが尠くありません。故に彼等が本邦滞在中は出来るだけ本邦知識階級の人の會合に列したり、優良な家庭へ出入したりする機會を多く與へて、我が邦の真相を充分理解させる事に努めなければなりません。殊に支那留學生の中には、安下宿や下等な間借生活をし、教育の無い下劣の輩から痛く虐待され、苦しめられて歸國するものが尠くない様でありますから、彼等に對しては此の點に注意する事が一層必要であります。外國人招待の公の席に藝者を侍らせたり、踊りを見せたりせぬこと。

八、外國人に對しては外國語の巧拙に頓着なく、十分の友情を以て氣輕に隔てなく談笑すること。

九、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十一、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十二、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十三、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十四、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十五、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十六、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十七、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十八、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

十九、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

二十、外國の代表的人物來遊の際には、必らず相當禮儀を以て迎接すること。

國民が左様な人物であることに氣附かなかつた事からつい禮遇を怠つた爲め、非常な不利益を招いた事が往々あります。故に將來は斯ういふ人達の往來にはよく注意し、縦し單なる觀光の爲めの非公式の來遊にしても、必ず相營禮儀を以て迎接する事を忘れない様にしたいと思ひます。

學

事

○椿村一青年の篤志

事件は昨年の半であつた本郡椿村の一青年が村立圖書館に本を返しに來り他の本を借つて歸らうとする時其の青年の談は痛く同館長たる大和校長を感動せしめた其の青年の語るに、
私は數年來他家へ奉公して居ますが昨今多少の手當を貰ふやうになりましたこれも元をいへば母校の御蔭です就てはこれから毎月金五拾錢宛を母校の校具購入費に寄附したいと思ひますどうか納めて下さいとのことであつた大和校長は君の特志は誠にありがたい

ことであるが今の時多少でも貯金でもして置いて出世の費用に充てたがよいではないかと諭してもなかなか聞き入れず是非にといふので遂に納めることになつた青年は更に語を次いで
このことは必らず他に發表して下さるなくれども頼みます
といつて歸りそれから毎月金五拾錢宛がさす送つて來る校長はその後數度君の篤志はよく了解して居るからもう止めたかよかろうと想ひる所ありしも今に繼續しせめて徴兵適齡になるまでは實行します
といふ校長もこの青年の意志を尊重して名前は發表せず斯る知恩報徳の念に富める青年が椿村に在ることは村の誇りであり又かゝる奉公人を有する傭主の大なる譽れであると喜んで末頼母しい青年の出世を日夜祈つて居らるるとうでゐる此青年は本年十九歳で家庭の事情に依り高等科に通學する能はざりしが尋常科時代より成績は常に優良で現在補習學校に於ても極めて勤勉で高等科卒業生に劣らぬ程の學力を有して居ることである由來椿村は報徳會の盛んな村で従つて村内に善行美談も尠くない偶々この話を聞くに及び國民思想の根底を涵養すべく郡内各町村に於ける報徳會の益發達隆盛を切望す

産

業

○阿武郡麥作保証栽培契約

大正十年度本部の施設たる麥作保証栽培擔當者保証額及契約主の内容左の如し(參考資料参照せられた保証栽培田設計書を記載せり)

村名	氏名	保証額
椿	國守倉之進	二石八斗
山	來島谷藏	二石八斗
山	田村美助	二石八斗
佐	井本菊次郎	二石八斗
大	増野守三	二石八斗
田	萬崎	二石五斗
福	川世良茂	二石五斗
奈	古小田龜五郎	二石四斗
德	佐正木義人	二石四斗
吉	部藤村眞熊	二石四斗
須	佐仁保福	二石四斗

△擔當者及保証額

△契約書内容

一、麥作保証栽培擔當者に對しては手當として一ヶ所金拾圓を交付す但作付段別一段歩以上のこと

一、保証すべき數量は左の通定む(前項保証額参照)

收量調査の結果右保証額に達せざる場合は不足額に對する金額を支給す但天災病虫害に依り減收を來したる場合は郡吏員並に地方當業者立會の下に其の地方に於ける減收歩合を査定し保証額より其の歩合を減したる高を保証額とす

一、收量調査は坪刈の法に依り定む

一、保証額に對し支給すべき價格は山口に於ける大正十年七月中の平均價格とす

一、擔當者にして郡の設計及指示に従はざるときは保証額を取消し又は減額することあるへし

○阿武郡東部七ヶ村聯合第一回稻作多收共進會

大正十年十二月二日生雲に於て本郡吉部、高俣、嘉年、德佐、地福、篠生、生雲の七ヶ村聯合して第一回稻作多收共進會を開催せるか其の状況左の如し(參考資料に地福村出品田耕種概要を記載せり參考せられたし)

△受賞者

段當收量	品種	町内氏名	
		町内	氏名
壹等賞	早生神力	地福	藏田作一
		同	森弘梅藏
貳等賞	早生神力	地福	村上長吉
		生雲	白井六郎
參等賞	白玉	生雲	原田賢吉
		生雲	杉勇治
參等賞	高知神力	生雲	伊藤與輔
		生雲	吉部岡村滿明
參等賞	中生神力	生雲	吉部岡村滿明
		生雲	久野磯吉
參等賞	都	生雲	末永與茂
		生雲	田中利彦
參等賞	高知神力	生雲	田中利彦
		生雲	田中利彦

△審査報告

阿武郡吉部、高俣、嘉年、徳佐、地福、篠生、生雲の東部七ヶ村聯合第一回稲作多收共進會開催に當り不肖乏しきを審査長の重任を擔ひ連日熱誠なる審査員各位の御努力に依り審査十數日に涉り審かに之が比較審査を行ひ最も公平に審査を完了せり

之が審査の概評を試みるに本年稲作は天候不順にして恰も不作たりし大正七年氣候に酷似し苗代期間たる四五月の温度は昨年と比較して稍高かりしも曇雨天多く日照量著るしく不足し殊に有功分蘗期にして稲作上最も重大なる關係を有する六七月は温度低く日照少く分蘗著るしく減したるを以て益々本年の稲作は不況なるの聲漸くに高まれり

然るに八月に入り急に温度上昇し分蘗盛になり豊作たりし昨年劣らざるの株張を見本年は稲作不良ならずの聲と變り吾人大ひに愁眉を開きたりどりどりの噂の内に愈々收穫するに至るや鎌入不足を悲しむの状態なり

稲作は年によりて著るしく豊凶あり之れ天候の稲作に關係する甚大なるに依り本年は天候不順のため一般に稲作不良にして二割内外の減收を免れず従て多收獲出品田の收量又著るしく低下せり不良天候に際會して改良稲作

を思ふこと痛切にして健全なる在法に對し一大鐵槌を下されたるものにして天誅と曰ふべきなり抑々稲作は春寒さからて春暖を催ふるに至り苗代に播下し秋冷の襲ふ前に收穫を了するものにして暖き期間に於て栽培を了するものなり其の暖き期間百五六十日の日數に於て稻は分蘗し其れより出穂開花し、結實し成熟する此三大業を行はざるべからず又從來の如く株張を大ならしめんことのみ望み肥料によりて增收を圖らんとするが如き栽培法は偶々天候良好の年に於て偶發的に多收を得ることあるも之れ僥倖を頼めるが如し本年の如き不順天候に際會するや遂に結實の余裕なく毛狀誠に美かりしも實收少く鎌入不足に陥れり殊に其の米たるや品質不良悪米多き状態にては尙更あり

稲作は早く分蘗を初め早く分蘗を抑制し以て實入りを十分ならしめて糞なく穂を大ならしめ其の方法たる苗代の改善して薄蒔を實行し移植法は長方形の小株密植法を行ひ又施肥法の適良を圖り一等賞に入選し本年に於て尙以て四石の實收穫を獲得したる地福村藏田作一、森弘梅藏兩氏の如き其の苗代其の植方其の施肥法に於て大ひに範とすべし又地福村の他村に比し一頭地を抜く好成绩を示せる村當局の指導獎勵に絶大の努力を傾注

し大ひに篤農家の發奮を期し一般營業者の自覺を促せる結果なり獨り本郡二十七ヶ村中稀に見る所たると共に縣下町村中稲作第一歩に成功せる大ひに他の以て範とすべき村なりと信ず改善の效果の斯く顯著なる大ひに注意せざる所なり

又近時稻熱病の蔓延は多收作の聲と共に甚しきを加ふ之れ多收作用品種の虚石に驅られて神力種を不適の地に栽植せしの結果なり、品種の撰擇の氣候の寒暖、又土地の粘質地たる砂地とにより其の撰り方を考慮を要するところ最も肝要なり

不良天候に遭遇し稲作失敗の苦き經驗を嘗めたる吾人は其の栽培法の欠陥に意を注ぎ改良稲作實行者の斯く以て好成绩を鑑み其苗代の改善、植方方法に又施肥法及品種の撰擇に改良を加へ天候順潮年に於て多收を實施すると共に不良天候に襲はるも其の收量低下を少からしめざるべからず、本共進會の趣旨不徹底のため徳佐高俣嘉年の三ヶ村より出品無かりしは誠に遺憾とする次第なり關係各村に於て今後栽培に一段の改良を施し來る十一年の第二回に於て目覺しき成績を顯し進歩の跡歴然たるものあることを

地福、篠生、吉部、生雲の四ヶ村の出品十八点あり一等二点

二等六點三等六點合計十四點を擬賞しました之れより褒賞の授與あらんことを

大正十年十二月二日

東部七ヶ村聯合第一回稻作多收共進會 審査長 阿武郡産業技手 山時 隆信

普通農事に關する協議會

大正十年十二月二日生雲村に於て本部東部吉部、高侯、嘉年、徳佐、地福、篠生、生雲の七ヶ村の普通農事に關する協議會を開催して左の事項を協議せり

- 一、本縣農會明年度事業に關する件
二、深耕普及に關する件
三、深耕普及方法に關し郡農會主任者協議會の決定事項左の如し

深耕普及方法に關し縣郡町村農會の執るべき方法左の如し

一、町村農會は隔年に一回深耕講習會を開催し講習生は主として青年を選定すること
二、各村に於て引續き施行
三、各村に於て引續き施行
四、各村に於て引續き施行

一、地主をして小作人に對する深耕講習會を開催せしめ併て深耕型を貸與賜與若くは購入費の補助をなす

一、地主をして小作人に對する深耕講習會を開催せしめ併て深耕型を貸與賜與若くは購入費の補助をなす
二、深耕普及に關する件
三、深耕普及方法に關し郡農會主任者協議會の決定事項左の如し

ハ地主にして深耕犁の普及を計りたるものに對し表彰

二、深耕に關する印刷物を配布すること

ハ深耕の成績優良なる部落を表彰すること

三、米穀共同販賣に關する件

四、苗代の改善に關する件

ハ町村苗代品評會優等者に對し郡農會長より選奨する

二、苗代薄蒔の宣傳をなすこと

ハ町村を區域とする稻多收品評會を開催すること

三、各村に於て一部落一名内外を標準に篤農者の氏名

ト産業豫備調査の状況如何

チ共同印刷(鎌入不足の原因と當業者の覺悟)取纏めの

こと

吾村の稻作實驗

地福村農會 福江利久

字用路岩村幸七氏は竈社の田地約一反歩を最近二ヶ年小作して居らるゝが此の田地へ六俵以上收穫することは十數年以前より頗る稀にして又實際困難であつた然し氏は熱心に農事改良に努め苗代薄蒔の如きは卒先して之を實行移植法の改良や其の他に就ても極力研究して之を行ひたる結果が的確に現れ二ヶ年共八俵以上に收穫を得たのである村農會の多收作品評會で入賞したのも此の田地であるが地方の人も評判して居る。

字長谷吉村熊雄氏は田地一町歩餘りの自作者であるが昨春福川村吉田の苗代視察より歸るや否や直に我が苗代田へ踏み込み夫婦協力して苗の大半を間引き捨てたのである。何分間引の時期は遅れて居たが相當に分蘗したる良苗が出来た如く間引を捨て、も決して苗に不足はしなかつたのである。又移植は全部縦一尺横五寸の長方密植を行つたところが除草に多少困難とかの問題があつた然るに秋になつて收穫の際には近隣の人々が之を見て穂が太くてよく揃ひたる事シイラの少き事刈稻の多き事等實に感心して居たとうだ夫婦共熱心に改良に努められた

る結果減少の聲高き年柄にも係らず米質は頗る良好にして且つ收量は前年に劣ることなく實に一家共々に笑みを含んで居らる。

字朴齊藤源六氏は苗代の薄蒔を行ひ相當に株張りしたる良苗を同一田地へ區分をして一粒植、二粒植、三粒植及び在來の如きつがみ植の四通りに試作せられたが一粒、二粒植は在來植に比し草出來が最も良好にして殆ど品種が違ふかと思はるゝ様であつた、成熟して刈り採りたるに矢張り一二粒植が收量多くて三粒植以上は漸次減收であつたしてみると小さき厚蒔苗のつかみ植は猶更不良ならん。字市井原村上長吉氏は四月十八日に種籾を蒔き其の苗を半分は六月一日に残る半分は六月九日に本田へ移植したが後に移植する際は已に苗が株を張り且つ太くて植むるに困難であつた。後植の方はよくないだろうと非常に心配して居たが却つて其の成績が良好で餘程收量が多かつたとかさすれば田植を急ぐよりは苗代で充分に作り上げた良苗を移植した方がよい事が判明される。

字山田森弘忠一氏は毎年相當の良苗を作りつゝあるが本田の植方に付て研究せんと思ひ六畝歩餘りの一枚田を等分して半分は正方形に半分は正方形密植を行つた、草田の時は両方共大差はない様であつたが成熟して各々正確

に坪刈調査をしたるに長方形の方頗る良好にして而も一坪に約四合五勺多かりしと之を米に換算すれば一反歩當約六七斗の増收となる、大正九年までは全部正角植を行ひ居たが大正十年は全部正方形密植を行つた氏が農事の改良に熱注し大に精勵したる結果前年より遙かに増收を得たのである、一般に年柄として減收の聲高きにも係らず斯る豊作者は村内でも稀である。

字神島内山音五郎氏は田地一町歩を耕作する自作者であるが苗代を改善したる結果三本乃至八本にも分蘖したる良苗を本田へ移植した草田の時も相當よかつたが收穫して非常に多く前年も豊作を得て居るが尚ほそれより五俵以上を増收したので大に喜んで居らる、又昨年麥を蒔付くる際近隣の人を雇ひ入れ共々に之を行ひたるが自分で蒔きし分は相當厚く蒔きしに雇入をして蒔かした方は頗る薄蒔にて發芽當時は随分醜いため大に落膽し再び蒔き込まんと思ひしに天氣の都合上遂に其の意を得ず其儘にして施肥や手入を行ひたるが春に至り麥の伸長するに従つて漸次其の状況を異にし然も薄蒔の方は穂が大きく且つよく揃ひ従つて收量も遙かに多かりしと是等は只偶然の出事なるがそれに依りて大に薄蒔の効果を認め本年は全部薄蒔の廣蒔を實行したりと。

字懸伊藤季熊氏は非常なる農事熱心家であるが薄蒔苗の効果を家内に了解せしむるため六畝歩餘りの一枚田を等分して一方は薄蒔の三本乃至六本にも分蘖したる良苗を片方は在來式の少し黄色なる厚蒔苗を同じ寸法に植付施肥や手入も同様にしたるに移植當時も相當に差異ありしが稲の生育するに従ひ益々其の状況を異にし丸で品種が違ふかと思はるゝ程であつた。成熟期の比較をして見ても薄蒔は穂が大きく揃ひシイラ少く頗る立派で厚蒔は穂小さく揃ひにして收量が一段歩當り四斗以上の相違を現はせり、之れに依つて家内は勿論近隣まで大に苗代改善の必要を認むる事が出来た。

字朴寺山覺一氏は五畝歩餘りの一枚田を長方形植區と正條區とに區別して植付け施肥や手入を同様にして研究したるに三割以上長方形植區の増收なること明かに示せり、又數十年來一石以上收穫したる事なき田地へ本年始めて長方形區密植を行ひたるに一石三斗以上を作り得た凶年には長方形密植の効果が格別であるといふ事が確かに證明される。

字杉原内山龍之祐氏は田地一町一反歩の自作者であるが從來正角植のみ行い居たりしも長男旭氏の特種なる熱心と研究に依つて本年は改めて全部を縦一尺に横四寸五分

の長方形密植を行ひたり、本年同部落は非常に減收殊に向原方面は特別の大凶作にも係らず前年に劣らざる收穫を得たるとは確に移植法の改良を行はれたる原因に依つて其の好成績を現はせしものあらんと信じらる。

字山田森弘梅藏氏は春田のレンゲを刈り倒すに普通の草刈鎌を以て之を刈れば非常なる時間と努力を要するが故に何ぞ良法なきやと色々考案したる曉古鋸(ドウギリ鋸)の柄くびを少し曲げてそれを持つて横なぐりになぐりつけたるに其の結果最も良好にして鎌で刈り捺るより十倍以上の仕事をなし得るのである。故に三畝や五畝歩の面積は僅かに休憩の時間にて刈り倒すことを得べし實に簡便にして經濟的良法なりと。

字下市藏田作一氏は農事改良の先導者であるが糯稻の植方を改良して長方形の密植を行ひたりしに其の結果が頗る良好にして殊に成熟の時期には恰も黄金の波打つが如く實に目ざましき状況であつた厚狭町から篤農家諸氏が來村された時之を一見して大に感ぜられ早速種籾の分與を依頼されたのである。面積は僅に五畝歩なりしが實收量は一石九斗五升あつた糯稻としては珍らしき收穫である。從來糯稻に限り一尺以上の正角に植付くる慣例があるが是等は大に改良すべき必要があると思ふ。

以上は何内に於ける最近の實例であるが斯くの如き例は
まだく村内に澤山ある、皆さんは是等の實例に依つて
益々自信を固め尙一層奮勵して農事の改良に努力せられ
んことを切望します。

第二回阿武郡産牛共進會

本郡産牛畜産組合主催に係る第二回産牛共進會は大正十
年十月一日より三日間須佐村に於て開設せるが其の概況
左の如し

出品人員

出品總人員は五十三人とす

出品点数

出品總点数は五十三点とす

町村別出品人員及点数表

町村名	種目	牝牛	牝牛	計
萩	一	一	一	二
椿	一	一	一	三
椿	一	一	一	三
山	一	一	一	三
田	一	一	一	三
計		五	八	一三

町村名	出品人員	出品点数
三見	一	一
明木	一	一
佐並	一	一
川上	一	一
篠生	一	一
生雲	一	一
地福	一	一
徳佐	一	一
嘉年	一	一
高侯	一	一
吉都	一	一
福川	一	一
紫福	一	一
大井	一	一
奈古	一	一
宇郷	一	一
福賀	一	一
須佐	一	一
彌富	一	一
小川	一	一
小島	一	一
田崎	一	一
六島	一	一

見六島島

合計

四三

五三

褒賞授與式

全月三日午後一時會場に於て多數來賓並に參觀人例席の
上盛大裡に舉行せり本縣知事より四等賞以上に褒状を下
付せられ本縣産牛畜産組合聯合會より優賞牛四頭に對し
選獎狀並に金牌一個銀牌三個を付與せられたり本郡畜産
組合は優等賞に金貳拾圓壹等賞に金拾五圓貳等賞金拾圓
參等賞金五圓宛及各等賞に賞旗一旒宛を賞與せり
知事告辞及審査報告左の如し

勢に照し到底現状を以て満足すべからず品質の向上優
良種畜の普及等將來に向つて改善の餘地尙甚大なるも
のあり諸氏深く思を時勢の要求に致して克く審査の成
績に稽へ今後益々之が改良増殖に力め國家將來の須要
に應じて遺憾なきを期せむことを望む一言以て告辭と
す

大正十年十月三日
山口縣知事從四位勳三等 中川 望

審査報告

第二回阿武郡産牛共進會出品の審査結果を告げ茲に褒
賞授與式を擧ぐるは本官の欣幸とする處なり由來本郡
の縣下主要の畜産地にして夙に之改良發達を圖り畜産
組合を設置して各種事業を經營し客年來本共進會を開
設して斯業の發達助長に勗めつゝあり今審査の成績を
觀るに前回に比し出品の資質漸く優良を加へ殊に牝畜
の形質概ね整備し改良進歩の跡顯著なるものあり是れ
畢竟當業者諸氏平素枯据精勵の結果にして斯業のため
慶祝に堪えざる所なり然と雖畜産業の發達は内外の情

今回の出品は牝牛拾点牝牛四拾三点でありまして全部改
良和種であります之を町村別に致しますれば須佐村の拾
壹点を最多とし大井、奈古之に次ぎ明木、三見、川上の
各壹点か最少であります萩、椿、生雲、篠生、福川、吉
部、佐々並、六島、見島の九ヶ町村より出品の皆無にあ
りますことは誠に遺憾とする所であります

次に審査の概況を述べますれば牝牛は其の出品頭數少く

ABUGUNPO

且優良なるものに乏しきことは畜牛改良上特に改善を要する点であると思ひます將來優良種牝牛の充實普及に努むるの要あるを認むるのであります然しながら牝牛に於きましては一般に体形長く整備し殊に血統の正しきもの多く所謂形質共に優秀なるもの少くなくことは平素郡當局の指導宜しきを得たと又一面當業者諸君の努力の致す所でありまして縣下主要の畜産地として實に意を強くする次第であります然しながら些細に之を観察しますと腎端の狭出なるもの斜尻なるもの臍幅の不足せるもの胸幅の狭きもの或は飼養管理の方法を誤りて皮下脂肪の沈着過多なるもの四肢常態を失し蹄匣菲薄被毛粗硬なるもの品位に乏しきもの等を認めます將來一層運動を充分にし牛体管理に努むるを要するのであります之を要するに右優良牝牛の保存並に普及に努め所謂蔓牛の造成を計り以て益々優良牝の生産を増進することに努力せられむことを望み次第であります

近來各地に不良系種の混入して血液の攪亂を來し地方産牛業を恐威するものあるの秋當業者諸君の深き自重を希望致します

審査は審査員と共に反覆精査し優等賞壹點壹等賞參點貳等賞六點參等賞拾貳點四等賞拾八點を撰援擬賞致しました

町村名	出品数	優等				計
		一等	二等	三等	四等	
萩	1	1	0	0	0	1
椿	1	1	0	0	0	1
山	2	1	1	0	0	2
三	1	1	0	0	0	1
明	1	1	0	0	0	1
佐	1	1	0	0	0	1
川	1	1	0	0	0	1
篠	1	1	0	0	0	1
生	1	1	0	0	0	1
地	1	1	0	0	0	1
徳	1	1	0	0	0	1
嘉	1	1	0	0	0	1
高	1	1	0	0	0	1
合計		11	5	0	0	16

大正十年十月三日
 第二回阿武郡産牛共進會審査長 山根忠正

受賞者

町村別入賞頭数

ABUGUNPO

種類	姓名	生年月日	村別	出品人氏名
優等賞(賞金貳拾圓)	吉川部	三三	吉川部	山根忠正
	福川部	三三	福川部	山根忠正
	大井村	七七	大井村	水津與三郎
	奈古郷	二七	奈古郷	下瀨虎七
	宇賀郷	一一	宇賀郷	山田村福永重太郎
	須賀郷	一一	須賀郷	山田村福永重太郎
	彌富川	四四	彌富川	山田村福永重太郎
	小川	六六	小川	山田村福永重太郎
	田崎	一一	田崎	山田村福永重太郎
	六島	一一	六島	山田村福永重太郎
	見島	一一	見島	山田村福永重太郎
	合見	五一	合見	山田村福永重太郎
	計	五一	計	山田村福永重太郎

種類	姓名	生年月日	村別	出品人氏名
壹等賞(賞金拾五圓)	大正九年	大正九年	大井村	阿武與市
	二月五日	二月五日	大井村	阿武與市
	大井村	阿武與市	大井村	阿武與市

種類	姓名	生年月日	村別	出品人氏名
改良和種牝牛第七藤園號	大正九年	大正九年	椿東村	福田甚平
	三月二日	三月二日	大井村	中原桑三
	紫福村	金子信吉	紫福村	金子信吉
	大井村	出羽源太郎	大井村	出羽源太郎
	大井村	田中市	大井村	田中市
全	大正九年	大正九年	須佐村	下田民藏
	七月五日	七月五日	須佐村	下田民藏
	須佐村	下田民藏	須佐村	下田民藏

種類	姓名	生年月日	村別	出品人氏名
改良和種牝牛第二英號	大正八年	大正八年	嘉年村	大枝又七
	十一月十三日	十一月十三日	嘉年村	大枝又七
	大正七年	大正七年	須佐村	伊藤千代楯
全	九月卅日	九月卅日	須佐村	伊藤千代楯
	須佐村	伊藤千代楯	須佐村	伊藤千代楯
	須佐村	伊藤千代楯	須佐村	伊藤千代楯

貳等賞(賞金拾圓)

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全朝	全若	全龜	全虎	全鶴	全大	全森	全寶	全鶯	全津	全和	全種	全種	全種	全種	全種	全種	全種	全種	全種	全種	全種	全種
海	櫻	野	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年	大正八年
十月一日	七月一日	八月十五日	九月八日	五月一日	六月一日	八月十五日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日	七月十一日
小川村	明木村	奈古村	山田村	三見村	高俣村	小川村	川上村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村
伊藤	田中	小田	中川	山本	八木	藤野	溝部	中原	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子	金子
重雄	國藏	吉郎	龜松	寅藏	五郎市	虎市	助一	德吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉	綱吉

四等賞

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全吉	全秋	全旭	全城	全山	全山	全榮	全田	全朝	全朝	全花	全治	全安	全陳	全陳	全陳	全陳	全陳	全陳	全陳	全陳	全陳	全陳
岡	月	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年	全年
一月三十日	八月廿八日	七月卅一日	九月一日	九月九日	九月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日	十月廿九日
須佐村	村	須佐村	奈古村	須佐村	須佐村	彌富村	須佐村	小川村	須佐村	須佐村	彌富村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村	須佐村
吉岡	松山	山根	小野	谷本	小田	小田	出村	野村	倉增	青木	中村	安野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野	小野
宮藏	園吉	淺吉	有吉	長吉	龜三郎	龜三郎	龜吉	龜藏	七藏	梅松	龜松	米藏	宗作	宗作	宗作	宗作	宗作	宗作	宗作	宗作	宗作	宗作

會場及出品の景況

一、會場須佐村景勝の地松崎公園内に設けられ入口に大
緑門を建設し牛舎は東両面側に三十頭繋ぎ二棟を建て

屋蓋を設けて雨露を凌ぎ得べき設備となし其他審査場
事務所等の設備整ひ中央に萬國旗、周圍はモールを以
て裝飾し緑門並に會場は數百イルミネーションを點じ
夜に入りては一大不夜城をなし壯觀を呈せり
二、出品の景況 各村よりは必ず最少限度一頭は出品さ
る、様努力されたるも遂に佐々並、萩、椿、生雲、篠生
福川、吉部、六島、見島の九ヶ町村より出品なかりしは
甚だ遺憾とする所なり今回の出品牛は凡て純本郡内生
産牛にして生後十二ヶ月以上三十六ヶ月迄の牝牡牛に
限り本郡既定の方針により造成に務められたる黒毛改
良和種にして凡そ各村に於て豫め選定の上出品された
る畜牛のみなりしを以て代表的陳列とも謂ふべく、毛
色揃ひ年齢又大差なきと牛体の高さ殆んど全一程度即
ち發育状況の順調可良なるを示し殊に体型よく齋ひ体
軀充實し資質優良にして特に血統明晰なるもの多く型
質よく齊し謂所確固たる本郡固有の蔓牛實現された
るものにして如斯本郡産牛界の齊一なる進歩の状況と
一場に集め多數當業者の實見も供したるは其の影響甚
大なるものありしと信す
参考品の一点は昨秋農商務省畜産試験場中國支場より
依託を受け大井村に於て飼養、試験中のアービーデー

附帶施設

シアレガス種牝牛にして其の偉大なる体軀充實せる狀
況及畜牛の型質並に飼養管理の狀態を實際に於て見聞
したる當業者は一般に其將來を期待したるもの、如
く必ずや本郡産牛界に貢獻する所あらん乎
一、北部四ヶ村在郷軍人分會員青年團員聯合体育大會
十月一日育英小學校々庭に於て開催剣數組の競技あ
り出演者八拾名頗る盛況を極む
二、須佐村家禽品評會 全村農會主催にて十月三日會場
内に開催せり出品点數僅かに七点なりしも參考となる
べきものなり全日褒賞授與式を舉行せり
三、北部六ヶ村聯合麥多收作品評會褒賞授與式像て開
催されたり全品評會褒賞授與式を三日引續き舉行せ
り
四、農業活動寫真 十月一日より三日間午後七時より十
二時迄育英小學校々庭に於て最新なる本縣農會農業活
動寫真第二艦隊萩港寄港の寫真及特に大阪アルカリ株
式會社より社員を派遣有益なる農業上の活動寫真等を
公開映寫す觀覽者一万に達し其の効果甚大なりしもの
あらん

五、篤農家大會 三日授與式后育英小學校講堂に於て篤農家大會開催出席者八十名にして盛會なりし

六、臨時家畜市場開設 會期間會場内に開設す三日贖糶賣を行ふ來場者多數、取引頭數五十頭にして盛況を呈す

七、競馬大會 三日四日の二日間宇水海に於て競馬大會を開催す駿馬の集まるもの縣内勿論遠く島根縣地方より來り其の數二百に達し愛馬家亦數千に達し大關一等賞に對しては玄米一俵を賞與せり

八、自轉車競争 四日小學校々庭に於て開催愛輪家の集まるもの二百名盛大裡に終了す

九、軍事行動 本郡北部地方は軍隊行動に接するの機會尠きを遺憾とし此の機に際し郷土訪問を實施されんことを其筋へ申請の處直ちに快諾せられ歩兵第四十二聯隊より本郡出身者を以て一ヶ大隊を編成し十月一日屯營出發佐々並、明木を経て椿東村越ヶ濱に宿營二日午後三時須佐村に到着す其の人員聯隊附城中佐大隊附穴戸少佐以下將校十八名、下士卒三百十五名馬匹七頭を數ふ此の日天氣晴朗にして面會せんとする父兄參觀せんとする群集午後に入り益々蟬虫し須佐町内及附近

道路は点々立錐の餘地なき程の出入にて一發又一發煙花の報するや行進喇叭の音勇ましく三百の健兒到着するや押すな押すな大雜踏を極め午後四時より約一時間互り水海附近に於て戰鬪開始なる轟然たる小銃の音を破るが如き機關銃聲進撃喇叭の音突喊の聲と相和し眞の戰場を思はしめ交戰酣なるの時演習中止を命ぜらる時に集まる群集無慮二方に達し眞に郷土訪問の實を揚げ得たり、三日須佐町内へ分宿早朝出發彌富村より徳佐村に到り宿泊四日歸營せり

▼驅逐艦回航 海軍思想普及のため軍艦回航方吳鎮守府長官へ申請の所當局大に諒とせられ驅逐艦陽炎(三百四十噸)を回航せしめられたり十月一日午前七時威風堂々黒煙を吐いて須佐港に入港陸地間近く投錨す乗組員艦長池田大尉以下將校七名下士官兵五十二名なり一日より三日間毎日午前九時より午後四時迄一般の拜觀を許さる前述の如く陸に精銳なる軍隊あり海に艦艇と浮ひしたる參觀者愈々殺到し郡内は勿論島根縣より來るもの日に益々多きを加へ軍艦拜觀者實に五千名に達せり下の關水上署よりは特に防長丸を派遣海上の警備と全時に拜觀者に乗せたる牽船を掌る等大に活躍す艦内に於ては兵器其他につき詳細なる説明ありて一般

人の利する所尠ならず加ふるに青年團員をして軍艦生活と實見せしめ併せて海軍志想鼓吹のため特に島根縣出雲大社迄往復航海を爲さんと各村より選拔されたる青年團員二十一名は乗せられて四日午前七時須佐港を抜錨す途中風浪高きにも係はらず航海中に於ける戰鬪演習を實見せしめられ或は艦内生活を詳に現見し其裨益する所甚大なりしと全日午後九時再び歸港團員皆壯健にして其の喜ば例ふるに者なく夫々歸村せり其夜拾時愈々一抹の煤煙を殘して水天髣髴の間に没しぬ

須佐村協賛會の活動

今回の舉に際し須佐村に於ては直ちに協賛會を組織し諸般の設備に歡迎に大に活動せり加ふるに村内各種公衛軍人分會員、青壯年團員、消防組、婦人會員其他各種團體相呼應し以て萬遺漏なきを期せり其の概況左の如し

一、出品人其他優待 會場は遺憾なく設備され會期中出品牛に對し飼料(藁)を支給し紀念として須佐燒盃一個宛及紀念文字入り手拭一枚宛を贈呈し驅逐艦の無料拜觀を許し來賓一同は共に式後小學校に於て瓶酒折詰の饗應を爲し其の數三百に達す

二、附帶施設に對する援助 前記各種附帶事業に對しては夫々相當經費及勞力の援助を爲し其の盛大を期せしめたり

三、陸海軍人に對する歡迎

イ、陸軍將校全部に對し二日夕堀別莊に於て盛大なる歡迎宴會を催す

下士卒各宿舍に對し一人に付拾五錢宛補助し及一人に付酒二合宛、須佐燒盃一個(六錢)饅頭五個(拾錢)を贈呈す

ロ、海軍驅逐艦陽炎 須佐燒花瓶一個(拾圓) 生花一束 (五圓)

將校全部に對し一日夕堀別莊に於て盛大なる歡迎宴會を催す、須佐燒盃一個宛、在艦將校へビール一打三日式後宴會に招待す

下士官兵卒に對し一日清酒一斗五升、須佐燒盃一個宛鮮魚一籠 二日饅頭五個宛(拾錢) 三日清酒二斗鮮魚一籠 三日間浴場開放隨意入浴の便を計る 四日出發に際しビール一打

四、町内裝飾 町内は萬國旗を張り各戸國旗及軒燈を點じ會場より水海に至るの各電柱に花電燈を点じ町入口に歡迎線

門を建設する等大に盛観を添へたり
五、煙花一日早朝軍艦入港と全時より三日間晝夜間斷なく而かも精美數種の煙花を打揚げ大に興を添へたり

其他軍事行動に對しては特に役場員中心となり青壯年團員、消防組員等協力大に盡力し或は宿舍割當に或は交通整理に或は一般參觀者に對する諸種の便益を與ふる等郡内一般參觀者のみならず遠く島根縣より小學校生徒及青年團員等多數團體の視察者續て來りて全村空前の盛況を呈するに際し協賛會を中心に官民共同一致よく物質上に將た精神上秩序整全として遺憾なく斡旋配慮し諸設よく連絡の下に無事終了を告げたるは全村各位努力の致す所なり

●農村四季の歌

- 一、春は嬉しや家内揃ふて苗代仕事
薄蒔 淺水 撰種 穂種
短冊形に益虫保護器一寸螟虫卵採り
- 二、夏は嬉しや家内揃ふて田の草仕事
田打仕事に深根きり
草取毎に水干しや一寸一反四石取り
- 三、秋は嬉しや家内揃ふて稻刈仕事
乾燥調製に念を入れ
二重俵に五つ締め一寸四斗俵改良米
- 四、冬は嬉しや家内揃ふて麥蒔仕事
割り土入れ黒穂よけ
肥料は過磷酸大豆粕一寸追肥は彼岸前

參 考 資 料

學 校 名	男	女	計	本 順	月	前	位
立野木瀨上川高	九九、八九	九九、二六	九九、六一	一	一	一	一
明木瀨上川高	九九、四四	九九、四五	九九、四四	二	二	二	二
高瀨上川高	九八、八二	九九、七一	九九、二八	三	三	三	三
川瀨上川高	九九、五七	九八、五八	九九、〇八	四	四	四	四
木瀨上川高	九九、四六	九八、七六	九九、〇五	五	五	五	五
字瀨上川高	九九、四四	九八、六一	九九、〇二	六	六	六	六
椿瀨上川高	九八、九七	九八、九六	九八、九七	七	七	七	七
佐瀨上川高	九八、七六	九八、六八	九八、七二	八	八	八	八
三瀨上川高	九七、九五	九八、六七	九八、三一	九	九	九	九
半瀨上川高	九七、五〇	九七、一三	九八、三一	〇	〇	〇	〇
篠瀨上川高	九八、〇一	九八、五九	九八、二九	一	一	一	一
長瀨上川高	九九、一五	九六、三二	九八、一七	二	二	二	二
下瀨上川高	九七、五八	九八、五九	九八、一〇	三	三	三	三
白瀨上川高	九七、一一	九七、七二	九七、三八	四	四	四	四
越瀨上川高	九七、四一	九六、九三	九七、一七	五	五	五	五
三瀨上川高	九七、九四	九六、三四	九七、一四	六	六	六	六
多瀨上川高	九七、三九	九六、七八	九七、〇六	七	七	七	七
紫瀨上川高	九七、五一	九六、六三	九七、〇五	八	八	八	八

目次

- 一、町村立小學校兒童出席步合表……………一
- 二、自大正五年度國縣町村稅滯納者人員表……………五
- 三、自大正九年度國縣町村稅滯納者人員表……………五
- 三、大正十年度後期各縣稅滯納者人員表……………六
- 四、大正十年度縣稅戶數割滯納人員表……………八
- 五、山口縣都市郵便貯金狀況(大正十年一月現在)……………九
- 六、東部七ヶ村聯合第一回地福村出品田耕種概要……………九
- 六、米多收作共進會……………九
- 七、大正十年蕪市場成績……………二
- 八、大正十年秋蕪町村別市場出荷狀況……………三

ABUGUNPO

町村立小學校高等科兒童出席歩合表 (其二)	學校名	郡平均	生吉上
		前本月	雲部川
椿西	椿西	九六、四八	九一、八一
嘉年	嘉年	九七、〇〇	九五、一八
明木	明木	九三、三四	九四、九八
太井	太井	九六、一七	八九、三一
奈古	奈古	九〇、一八	九二、七五
宇田	宇田	九六、一七	九七、六七
育英	育英	九五、九一	九三、七九
三谷	三谷	九六、一七	九七、六七
佐並	佐並	九五、四三	九三、七九
高侯	高侯	九五、四三	九三、七九
彌富	彌富	九五、四三	九三、七九
川上	川上	九五、四三	九三、七九
計	計	九六、二四	九三、一五
本月	十二月分	九六、四九	四〇
前位	前	九三、二四	三九
前月	前	九六、二四	三八

ABUGUNPO

町村立小學校高等科兒童出席歩合表 (其一)	學校名	郡平均	
		前本月	雲部川
福川	福川	九六、八四	九七、二〇
地倫	地倫	九六、六七	九六、九四
明倫	明倫	九六、五九	九六、七一
見島	見島	九七、八四	九五、一八
嘉年	嘉年	九八、二九	九四、六六
大井	大井	九六、六〇	九六、三三
龜山	龜山	九五、九五	九六、二一
椿東	椿東	九六、六五	九六、〇八
奈古	奈古	九六、九五	九六、〇五
彌富	彌富	九七、九五	九六、四七
野呂	野呂	九五、四三	九六、四七
徳佐	徳佐	九三、八四	九六、〇五
福田	福田	九五、〇六	九六、〇八
相島	相島	九六、〇九	九五、八六
小川	小川	九五、七六	九五、八六
鈴川	鈴川	九七、三一	九五、五一
育英	育英	九三、〇〇	九五、三四
大島	大島	九五、四九	九五、二八
大島	大島	九五、四九	九五、二八
高目	高目	九二、八六	九四、六九
侯喜	侯喜	九六、〇〇	九四、五六
計	計	九五、六一	九四、〇五
本月	十二月分	九五、四九	三六
前位	前	九五、九一	三五
前月	前	九六、二四	三七

ABUGUNPO

町村	種目	至自	大正五年度	大正六年度	大正七年度	大正八年度	大正九年度
秋椿村	二、	大正五年度	四七五	一、二八一	五三五	一三三二	五六八
椿山	三、	大正五年度	二八六	二五八	一八	一一	一三三
三山	四、	大正五年度	一八六	一四九	五五	一一	一三三
明佐	五、	大正五年度	一五八	一四九	五五	一一	一三三
川上	六、	大正五年度	一、二六八	五九	一一	一一	一一
篠生	七、	大正五年度	四、三〇三	三、二一三	一、一六二	四、五九	一、二二
地生	八、	大正五年度	一、〇八五	二、二八	二九	四	一、二二
德地	九、	大正五年度	一、〇八五	二、二八	二九	四	一、二二
嘉年	一〇、	大正五年度	二、一五	二、七	一、七	一、六	一、二二
高部	一一、	大正五年度	二、八一	二、〇四	二、〇	一、六	一、二二
吉部	一二、	大正五年度	一、三二	一、〇九	二、四	一、三	一、二二
福川	一三、	大正五年度	一、一八	一、四二	二、四	一、七	一、二二
紫福	一四、	大正五年度	四二	二一	一、二	一、七	一、二二
大井	一五、	大正五年度	四二	二一	一、二	一、七	一、二二

至自大正五年度 國縣稅町村稅滯納者實人員表

ABUGUNPO

郡平均	前月	本月	見島	福田	福水	白水	小川	多磨	篠目	三生	紫雲	德佐	明倫	地福	椿東	大島	吉部	學校名	男	女	計	本	前	位																																																																																																															
九六、五〇	九六、八二	九三、三八	九一、九六	九四、八五	九六、四五	九四、二五	九三、六一	九八、三〇	九五、七一	九五、四一	九五、七一	九五、八九	九五、五四	九七、四五	九七、二二	九五、七一	九七、一〇	立小	九七、一〇	九六、八三	一〇〇、〇〇	九六、八三	九六、九七	九六、五七	九六、四〇	九六、三八	九六、二〇	九六、一七	九六、〇〇	九五、八一	九五、五〇	九五、四一	九五、〇〇	九四、九六	九四、九〇	九四、八五	九四、四〇	九三、三八	九三、七六	九三、三二	九二、三二	九一、三二	九〇、八四	八八、三二	八八、三一	八八、二一	八七、七二	八七、七二	八六、七五	八六、〇二	八四、八四	八三、〇二	八二、三二	八一、三二	八〇、八四	七九、七六	七八、三二	七七、三二	七六、三二	七五、三二	七四、三二	七三、三二	七二、三二	七一、三二	七〇、三二	六九、三二	六八、三二	六七、三二	六六、三二	六五、三二	六四、三二	六三、三二	六二、三二	六一、三二	六〇、三二	五九、三二	五八、三二	五七、三二	五六、三二	五五、三二	五四、三二	五三、三二	五二、三二	五一、三二	五〇、三二	四九、三二	四八、三二	四七、三二	四六、三二	四五、三二	四四、三二	四三、三二	四二、三二	四一、三二	四〇、三二	三九、三二	三八、三二	三七、三二	三六、三二	三五、三二	三四、三二	三三、三二	三二、三二	三一、三二	三〇、三二	二九、三二	二八、三二	二七、三二	二六、三二	二五、三二	二四、三二	二三、三二	二二、三二	二一、三二	二〇、三二	一九、三二	一八、三二	一七、三二	一六、三二	一五、三二	一四、三二	一三、三二	一二、三二	一一、三二	一〇、三二	〇九、三二	〇八、三二	〇七、三二	〇六、三二	〇五、三二	〇四、三二	〇三、三二	〇二、三二	〇一、三二	〇〇、三二

耕種梗概
氏名
藏田作一
森弘梅藏
村上長吉
田中福松
宮崎恒雄

六、東部七ヶ村聯合第一回地福村出品田耕種概要
米多收作共進會

大	玖	熊	都	佐	吉	厚	豐	美	大	阿	下	計
高	阿	毛	濃	波	敷	狹	浦	彌	津	武	關	
三三、七四	三三、三〇六	三三、三五五	三三、八五六	二九、四三二	五七、六六〇	四一、三三三	四二、二〇〇	一八、九〇六	三三、三九八	四二、三六九	五、七六六	四七、二九四
二、九二六、二五三	三、二四一、〇一五	二、一八三、一五六	一、二一九、四六〇	九七六、二四	一、九四、九九一	一、三三四、一六三	一、九九七、〇六三	四七、一二九	五、八、〇一一	一、三七二、三九七	二、九〇七、四三五	三、一四一、二八七
七	六	五	三	三	三	三	四	二	三	三	五	四
一	二	三	七	八	六	〇	一	一	二	三	九	四
五	三	四	三	三	五	三	三	四	四	八	二	五
二	三	五	三	二	三	一	〇	六	七	四	一	一
五〇	三三	四七	三七	三七	五三	三七	三七	四七	四七	八二	四三	四五
一	二	三	五	八	三	〇	六	四	七	一	七	二
五〇	二五	二七	二二	二二	一九	二二	二二	二二	二二	四三	二〇	二〇
一	四	三	〇	八	五	九	二	一	二	七	二	一

五、山口縣都市郵便貯金狀況 (大正十年一月)

郡市名	貯金人員	貯金高	貯金者一人當金高	順位	人口百人當	順位	人口一人當	順位
-----	------	-----	----------	----	-------	----	-------	----

四、大正十年年度縣稅戶數割滯納人員表

町村名	種目	前期	後期	計	町村名	種目	前期	後期	計
高	保		八	二	合	見	四		三
嘉	年				見	島	九		八
德	佐				六	島			
地	福				田	崎			
生	雲				小	川			
篠	生				彌	富			
川	上				須	佐			
佐	並				福	賀			
明	木				字	郷			
三	見				奈	古			
山	田				大	井			
椿	東				紫	福			
椿					福	川			
萩					吉	部			
計					計				

市 場	名 稱	期 別	開 市		正 量	代 金	玉 量	代 金	合 量	代 金																
			日 數	日 數																						
蒔 春	蒔 春	蒔 春	三	七	九、六六一貫三〇	六六、七四六、五四〇	五七、七二二〇	一、九一三、三九〇	一〇、二五六、三五〇	七〇、六六一貫三〇																
											蒔 夏	七	一、七三六、九八〇	九八、七一九、三三〇	二六、四、五二〇	九三、一、八〇〇	二、〇〇三、五〇〇	一〇、七九五、一一〇								
																			蒔 秋	一五	二、五二九、六六〇	一七、〇九五、七二〇	三六、一、八二〇	一、二六六、七四〇	二、八八一、四八〇	一八、三六二、四九〇

米	刈取月日	除草及回数	追肥(一反當)	原肥(一反當)
一反當收量	十月五日	手取四回	石灰 三〇貫 カリオンサン 七 アンモニア 三	堆肥 四〇〇貫 大豆粕 一三〇貫 石灰 一五〇貫
全部赤貳等	十月十日	手取四回 除草器一回	石灰 一五貫 カリオンサン 一〇貫 アンモニア 三	堆肥 二〇〇貫 大豆粕 二〇〇貫 石灰 三〇〇貫
全部赤貳等	十月十日	手取四回	カリオンサン 一〇貫	レンゲ 三〇〇貫 柴草 一五〇貫 石灰 八〇貫
全部赤貳等	十月十四日	手取四回	大豆粕 一五貫 カリオンサン 一〇貫	堆肥 三〇〇貫 柴草 一〇〇貫 石灰 七〇貫
全部赤貳等	十月十四日	手取五回	石灰 三五貫 カリオンサン 一〇貫	堆肥 二〇〇貫 レンゲ 二五〇貫 柿實粕 三五〇貫

株 間	植 付	土 質	稲ノ種類	出品田反別	本 田		除 草	施 肥	播 種	撰 種						
					苗	代										
一株ノ本數	六月六日	砂質壤土 五寸五分	早生神力	一反一畝步	二粒乃至三粒	三粒	除草間引各二回	人糞尿 五〇貫 アンモニア 五 カリオンサン 一五 木灰 一五	四月二十日 坪ニ合五勺	鹽水選池ニ六日間						
					六月五日	早生神力	一反步	二粒乃至三粒	三粒	除草間引各二回	堆肥 八〇貫 人糞尿 二五 アンモニア 一五 カリオンサン 一〇 木灰 二〇	四月十五日 坪ニ合五勺	鹽水選池ニ五日間			
								六月一日	早生神力	一反步	三粒乃至四粒	四粒	除草間引各一回	人糞尿 八〇貫 アンモニア 六	四月十八日 坪ニ合五勺	鹽水選池ニ九日間
											六月四日	中生神力	一反一畝步	二粒乃至三粒	三粒	除草一回間引二回
六月一日	砂質壤土 四寸五分	中生神力	一反八畝步	二粒乃至三粒	三粒	除草間引各一回	人糞尿 一〇〇貫 アンモニア 六 木灰 二五	四月二十日 坪ニ合	鹽水選池ニ六日間							

ABUGUNPO

町村名	○德佐市場		計	代	金
	正	蘭			
椿村	七三、九二〇	六、九六〇	八〇、八八〇	五二、三二〇	
萩町	四一、七一〇	九、五六〇	五二、二七〇	三四五、六五〇	
紫福村	一三、四〇〇	一、〇一〇	一四、四一〇	九七、〇〇〇	
山田村	九、一五〇	〇、七〇	九、九一〇	六〇、七三〇	
三見村	五、二四〇	〇、七〇	五、三一〇	三六、二三〇	
須佐村	二、六五〇	〇、七〇	二、六五〇	一一、二六〇	
見島村	一、九〇〇	〇、〇〇	一、九〇〇	一、五〇〇	
美禰郡	一一、〇〇〇	二、六〇〇	一三、六〇〇	七三、〇〇〇	
大津郡	九、二〇〇	〇、四一〇	九、六一〇	五二、〇一〇	
計	二、五二九、七六〇	三四六、七五〇	二、八七六、五一〇	一八、三〇八、二一〇	
正蘭平均値段	六五二				
徳佐村	三九八、四二〇	七四、二八〇	四七二、七〇〇	二、二三八、一四〇	
吉部村	一一七、一六〇	一八、五八〇	一三五、七四〇	六一九、一四〇	

ABUGUNPO

町村名	○萩蘭市場			計	代	金
	正	蘭	玉屑			
川上村	一、〇四八、二四〇	一八四、四八〇	一、二三二、七二〇	七、六五八、一五〇		
椿東村	三五四、五五〇	二五、六八〇	三八〇、二三〇	二、五〇〇、〇八〇		
大井村	二九一、六〇〇	三一、七三〇	三二三、三三〇	二、二六、八六〇		
明木村	二五六、五〇〇	四三、一三〇	二九九、六三〇	一、七九三、四七〇		
奈古村	二四七、九二〇	二七、三八〇	二七五、二〇〇	一、七五四、五六〇		
福川村	八六、五四〇	六、七六〇	九三、三〇〇	六〇三、一七〇		
宇田郷村	七五、二四〇	六、三一〇	八一、五五〇	五六一、三二〇		
八、大正十年秋蘭町村別市場出荷表						
徳	一、五七七、五五〇	九、七二三、六八〇	二三四、一〇〇	七五三、四九〇	一、八〇一、六五〇	一〇、四七七、一七〇
佐	一、四二一、〇六〇	七、九九六、三六〇	二七九、八一〇	九一四、三六〇	一、七〇〇、八七〇	八、九一〇、七四〇
市	九四八、六〇〇	五、〇三七、一九〇	一七八、六六〇	五三二、八〇〇	一、一二七、二六〇	五、五六九、九九〇
場	三、九四七、二一〇	二二、七五七、二五〇	六八二、五七〇	二、三〇〇、六五〇	四、六二九、七八〇	二四、九五七、九〇〇
合	一一、二五八、六八〇	七八、四七二、二二〇	八〇一、二二〇	二、六六六、八八〇	一一、〇五九、九〇〇	八一、一三九、一〇〇
春	三、一六〇、〇四〇	一七、八六八、三〇〇	五四四、三三〇	一、八三七、五四〇	三、七〇四、三七〇	一九、七〇五、八五〇
夏	三、四七八、二六〇	二二、一三三、九〇〇	五四〇、四六〇	一、七九九、五四〇	四、〇二八、七四〇	二二、九三二、四四〇
秋	一七、八九六、九八〇	一一八、四七三、四三〇	一、八八六、〇三〇	六、三〇三、九六〇	一九、七八三、〇一〇	一四、七七七、三九〇
計	五七	二一八、四七三、四三〇	一、八八六、〇三〇	六、三〇三、九六〇	一九、七八三、〇一〇	一四、七七七、三九〇

嘉年村	五八、〇〇〇	一〇、二五〇	六八、二五〇	三二四、〇三〇
地福村	五二、七三〇	八、七七〇	六一、五〇〇	二九〇、五八〇
篠生村	二八、一九〇	二、五五〇	三〇、七四〇	一四九、五五〇
生雲村	二七、八二〇	一、三三〇	二九、一五〇	一四三、八六〇
福賀村	二二、一一〇	二、六二〇	二二、七四〇	一〇七、四九〇
高俣村	九八〇	一八〇	一、一六〇	四、七三〇
佐波郡	二二八、四八〇	五四、五八〇	二九三、〇六〇	一、六五九、一七〇
島根縣	五、七〇〇	五八〇	六、二八〇	二七、七一〇
計	九四八、六〇〇	一七三、七二〇	一、二二一、三三〇	五、五五四、四〇〇
正滿平均值段	五三一			
合計	三、四七八、三六〇	五二〇、四七〇	三、九九八、八三〇	二三、八六二、六一〇
正滿平均值段	六三六			

阿武郡報第六十一號

大正十一年二月二十五日發行

◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可

◎每月一回二十五日發行

一部(代價金拾錢)